

5月14日（木）5限 古典 2-1

前回までのことに付け加えて。

教科書二八ページ～三〇ページの「まぎらわしい語の識別」は受験生の常識です。しっかり確認しておいてください。

三一ページの文学史も、よく入試問題で問われます。『源氏物語』を平安文学の頂点と考え、それ以前とそれ以後の作品を問われる問題がよく出されます。

物語は「作り物語（伝奇物語）」「歌物語」そして「歴史物語」の三つにジャンル分けします。

「作り物語」は、いわゆるフィクションの作品です。。『源氏』より前に書かれた作品は『竹取物語』『うつほ物語』『落窪物語』の三つです。『竹取物語』は『源氏物語』の中で「物語の出で来はじめの祖（おや）」と表現されていますね。

「歌物語」は、和歌が作品の中で重要な位置を占める作品です。『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』の三つを覚えておきましょう。『大和物語』は『伊勢物語』と共通する内容のものが多いですね。

これらの作品に加えて、『蜻蛉日記』などの日記文学も、『源氏』に大きな影響を与えています。

入試問題では、『日本霊異記』が選択肢に混ぜられることがあります。これは日本最古の説話集です。『源氏』よりも二〇〇年近く前に、僧景戒によって書かれました。

以上のゴシックの部分『源氏』以前に書かれた作品ですので、覚えてください。

「歴史物語」は『栄花物語』や『大鏡』などの、歴史上の人物や出来事を描いた作品です。いずれも、『源氏』よりも後に書かれました。

さて、『枕草子』は中学校の時にもやりましたね。序段の「春はあけぼの」について、中学の時と違う視点で見てください。それは、句読点の打ち方です。句読点はもともとの原文にはまったくありません。句読点は明治になって欧文のコンマ、ピリオドをまねて、日本語の表記に使われ始めました。ですから、明治以前に句読点はありません。

たとえば、教科書では「やうやう白くなりゆく、山ぎはすこしあかりて、」となっていますが、「やう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、」と読点の打ち方を変えるとどうでしょうか。すこしイメージが違って来ませんか。また、「夏は夜」の段落は、「月のころ」と「闇（夜）」の対比、蛍が「多」いのと「ただ一つ二つ」なのとの対比をうまく表現するための句読点の付け方は、教科書の付け方が一番いいのでしょうか。もっと別の付け方も考えられないでしょうか。

今日のメインは、「すさまじきもの」です。

- ①最低3回、声に出して読みましょう。
- ②*印（アスタリスク）の付いている語の意味を調べましょう。
- ③添付の自習プリントをやりましょう。（解答付き）

以上です。がんばって。